

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月18日



PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

1. 2020年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2020年3月期 業績予想
3. 次期中期経営計画までを繋ぐ
「バリュークリエーション(VC)2020Plus」



1. 2020年3月期 第2四半期 決算概要

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2020年3月期 第2四半期 決算概要

2020年3月期 第2四半期 決算ハイライト

米中貿易摩擦の影響による中国景況の減速感が継続し、全地域で減収

売上	連結	連結売上高は、前年同期比85.9%、29億円減の179億円。
	日本	前年同期比89.3%の75億円。 電子部品・半導体関連売上の減少の影響等が大きく、全体的に売上減少。
	中国	前年同期比81.6%の84億円。 自動車関連、電子部品・半導体関連等の低迷継続。
	東南アジア	前年同期比88.5%の7億円。 インドは前年同期を上回ったものの、これを除く東南アジアが低調。
	欧米他	前年同期比97.0%の12億円。 米州は伸長鈍化したものの前年同期を上回ったが、欧州が低調。
利益		営業利益は前年同期比5.8%の80百万円 経常利益は前年同期比0.2%の2百万円 四半期純損失は1億21百万円(前年同期は四半期純利益10億5百万円)
ネット資金		投資抑制等により、期首から60百万円増加。

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

3

■ 2020年3月期 第2四半期の決算ハイライト

■ 米中貿易摩擦の影響等から全地域で減収

- ①日本: 電子部品・半導体関連の売上減少の影響等が大きく、全体的に売上減少
- ②中国: 自動車関連、電子部品・半導体関連等の低迷が継続しており、減収
- ③東南アジア: インドが前年同期を上回ったものの、インド以外の東南アジアが低調
- ④欧米他: 米州は営業開始時の勢いは鈍化したものの前年同期は上回ったが、欧州は低調で、減収

■ 利益面は、グループを挙げて経費削減に取組み、販売費及び一般管理費は前年同期よりも削減することが出来たが、受注減少に伴う工場の操業悪化により原価率が上昇し、減益

損益計算書サマリー

(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期差	前年同期比
売上高	20,937		17,991		▲ 2,945	85.9%
営業利益	6.6%	1,374	0.4%	80	▲ 1,294	5.8%
経常利益	6.4%	1,340	0.0%	2	▲ 1,337	0.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4.8%	1,005	-	▲ 121	▲ 1,126	-

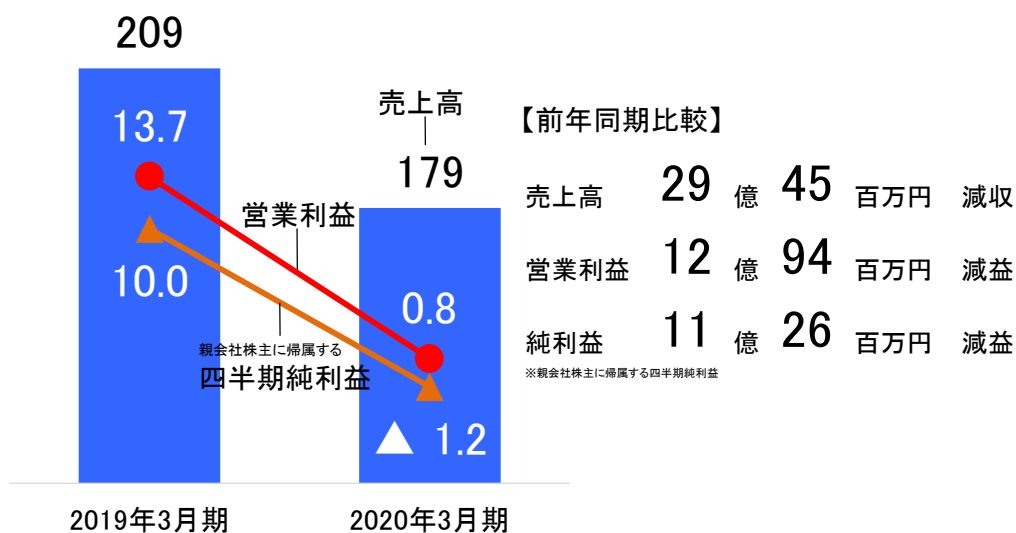
■ 決算数値の概要

■ 売上高は179億91百万円で、前年同期比85.9%、29億45百万円の減収
 営業利益は80百万円、
 経常利益は2百万円、
 四半期純損失は1億21百万円

※四半期純損失＝親会社株主に帰属する四半期純損失

売上高と営業利益(2Q累計比較)

(単位: 億円)



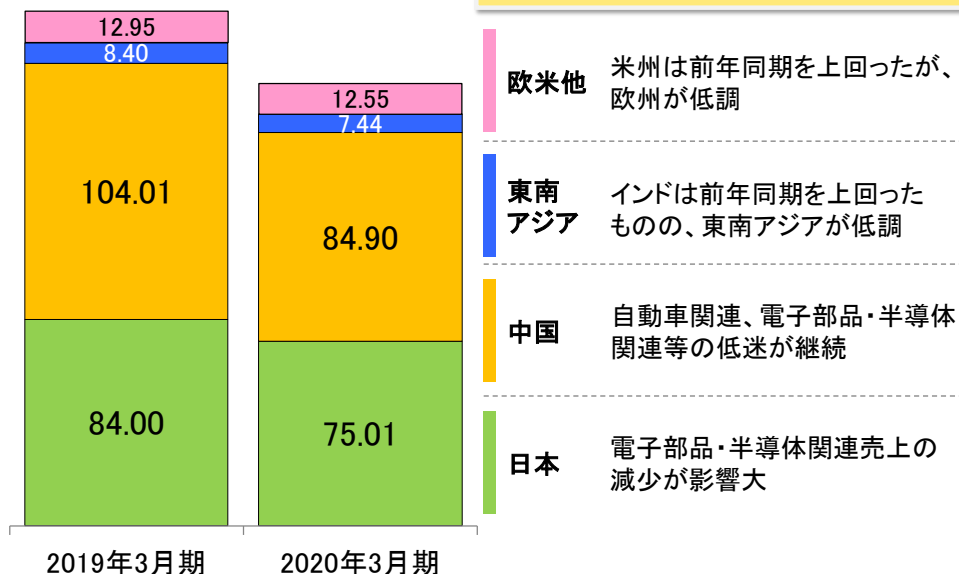
■売上高・営業利益・四半期純利益の第2四半期累計の前年同期比較

■売上高の低迷により、利益が大幅に減少

※四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

地域別売上高(2Q累計比較)

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

6

■地域別の売上高の第2四半期累計の前年同期比較

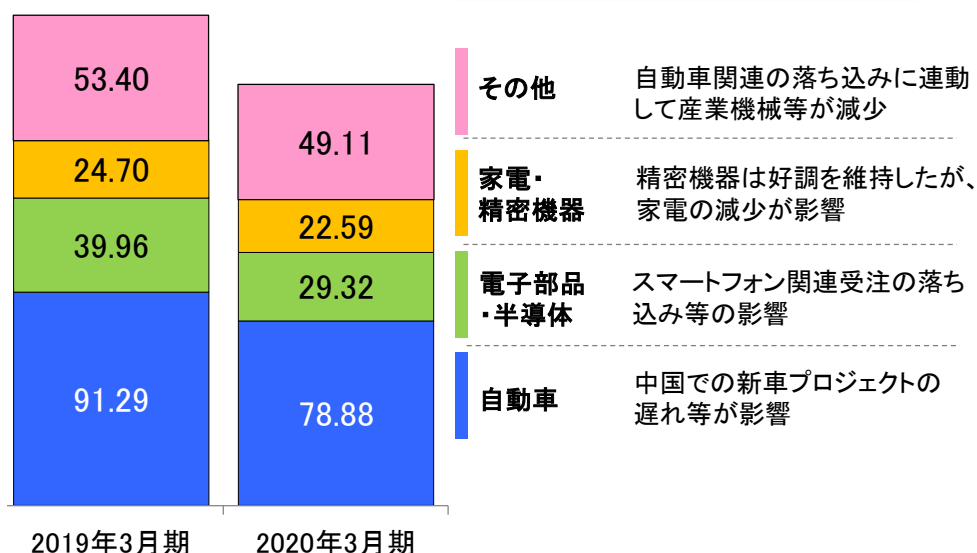
- ①日本: 電子部品・半導体関連売上の減少が影響大
- ②中国: 自動車関連、電子部品・半導体関連等の低迷が継続
- ③東南アジア: インドは前年同期を上回ったものの、東南アジアが低調
- ④欧米他: 米州は前年同期を上回ったが、欧州が低調

※四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

業種別売上高(2Q累計比較)

(単位: 億円)

全ての業種において減収



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

7

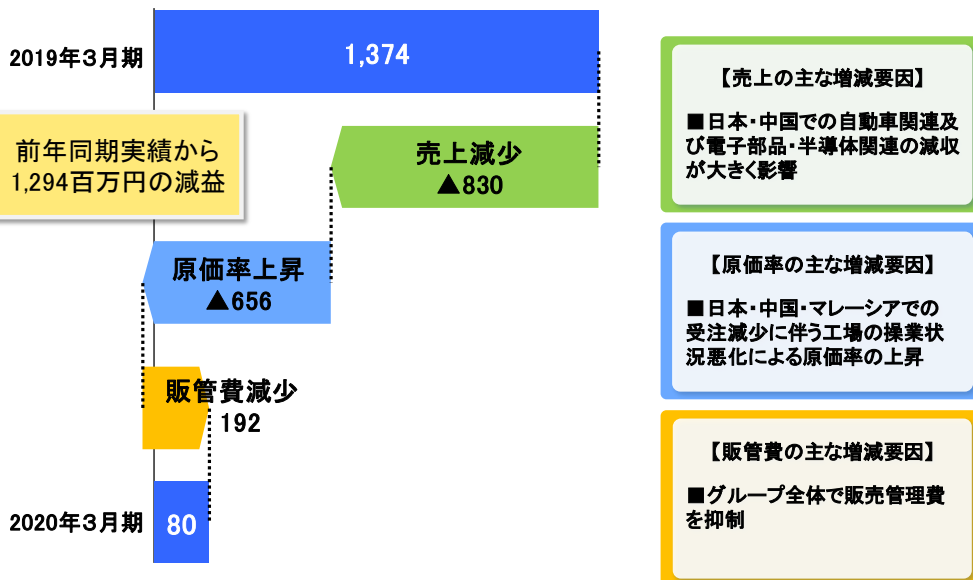
■業種別の売上高の第2四半期累計の前年同期比較

- ①自動車: 中国での新車プロジェクトの遅れ等が影響
- ②電子部品・半導体: スマートフォン関連受注の落ち込み等の影響
- ③家電・精密機器: 精密機器は好調を維持したが、家電の減少が影響
- ④その他: 自動車関連の落ち込みに連動して産業機械等が減少

※四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

営業利益増減(2Q累計比較)

(単位:百万円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

8

■営業利益の増減分析

■前年同期実績の13億74百万円から、売上減少の影響により8億30百万円、また、原価率の上昇により6億56百万円と、大幅な利益減少となり、販管費を1億92百万円削減するも、減益要因をカバーすることは出来ず

■結果、2020年3月期 第2四半期累計の実績としては、80百万円となり、前年同期に対し、12億94百万円の減益

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2019年3月期末	2020年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	31,155	28,622	▲2,532
総負債	15,420	13,499	▲1,920
うち有利子負債	7,079	5,749	▲1,329
純資産	15,734	15,122	▲611
ネット資金	▲3,499	▲3,439	60
自己資本比率	50.4%	52.7%	2.3pt

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	1,352	1,216	▲136
減価償却費(無形固定資産含む)	822	893	71

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

9

■貸借対照表サマリー

■総資産は286億22百万円、売掛債権の回収に努めた結果、25億32百万円圧縮、総負債は134億99百万円、借入金の返済等により19億20百万円圧縮、純資産は、四半期純損失となった影響等から6億11百万円の減少となり、151億22百万円

■自己資本比率は、純資産は減少したものの、総資産が圧縮されたことにより、前期末より2.3pt上がり、52.7%

2. 2020年3月期 業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2020年3月期 業績予想

2020年3月期 通期の業績予想及び期末配当予想を修正

(単位:百万円)

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 通期(連結)			
		前回予想 (2019/8/8)	修正予想	前期差 (前期比)	前回予想差 (前回予想比)
売上高	40,935	38,000	35,400	▲ 5,535 (86.5%)	▲ 2,600 (93.2%)
営業利益	6.3% 2,578	3.2% 1,200	1.3% 450	▲ 2,128 (17.5%)	▲ 750 (37.5%)
経常利益	6.2% 2,547	2.9% 1,100	1.0% 350	▲ 2,197 (13.7%)	▲ 750 (31.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.3% 960	1.8% 700	0.1% 50	▲ 910 (5.2%)	▲ 650 (7.1%)
自己資本利益率 (ROE)	6.0%	4.4%	0.3%	▲ 5.7pt	▲ 4.1pt

2020年3月期
配当予想

2円 = 中間 0円 + 期末 2円(予定)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

11

■最近の業績の動向を踏まえ、2020年3月期通期連結業績予想及び1株当たり期末配当予想を修正

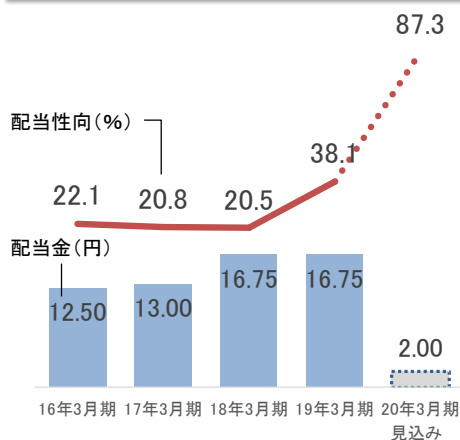
■通期の連結業績予想は、第3四半期以降、米中貿易摩擦の一層の深刻化等、先行き不透明感が強まっているなか、各社の設備投資の抑制や自動車生産台数の低迷、電子部品・半導体市況の回復遅れ等により、国内・海外におけるさらなる売上高の減少、それに伴う工場の操業悪化による原価率アップ等が見込まれるため、前回発表予想を下方修正

■上記業績予想修正に伴い、慎重に検討した結果、誠に遺憾ながら、当期の期末配当予想は、1株につき2円に修正

1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標



2018年1月1日付での1:2の株式分割を実施。遡及して当該株式分割が行われたと仮定して各年度の配当金を算出しています。

継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。

2020年3月期の配当
中間 0円 + 期末 2円(予定)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

12

■配当予想の補足説明

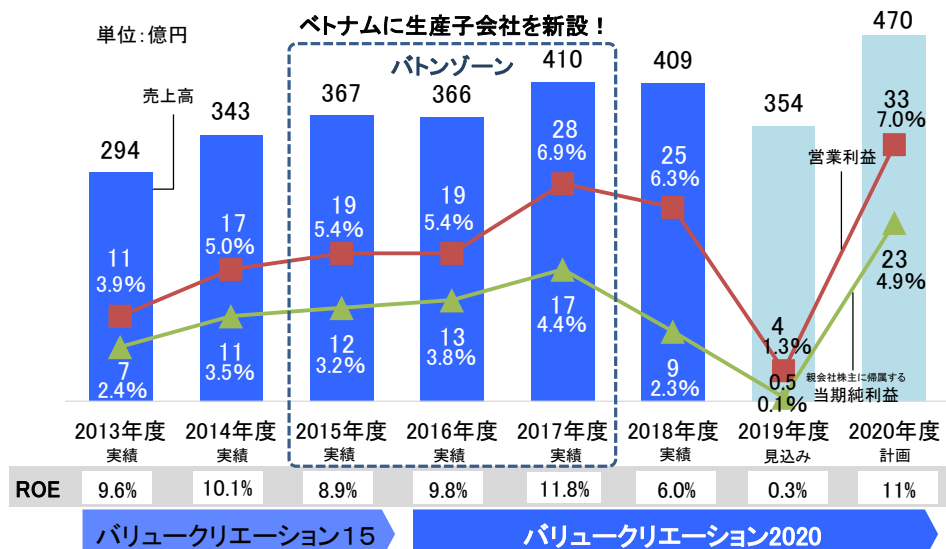
■昨年まで増配基調を堅持

■今期は、配当性向を87%まで高めて、利益のほとんどを株主様への還元に充てるが、大幅な減配を免れず

■今後の業績回復と配当水準の正常化を期して、取組んでいく

経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高470億円以上 営業利益33億円以上 当期純利益23億円以上



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

13

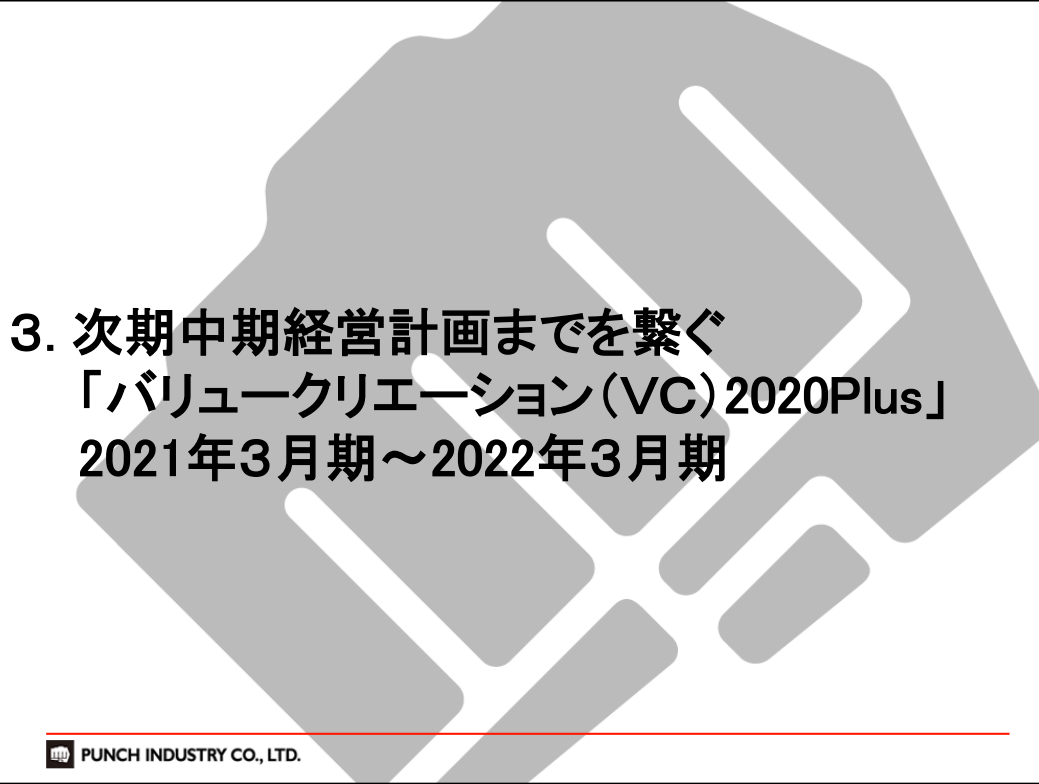
■売上高・利益の推移

■「バリュークリエーション15」の3年間と、「バリュークリエーション20」に入ってから最初の2年間は、順調に増収増益基調

■2019年3月期の後半から、中国、日本、欧州と市況が次々とスローダウンし、今期は大幅な減収減益が見込まれている

■「バリュークリエーション20」は、来年に最終年度を迎えるが、現在の市場環境では、非常に高いハードル

■来年度より、事業立て直しのための新たな2カ年計画を始動(概要は後述)



3. 次期中期経営計画までを繋ぐ 「バリュークリエーション(VC)2020Plus」 2021年3月期～2022年3月期

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

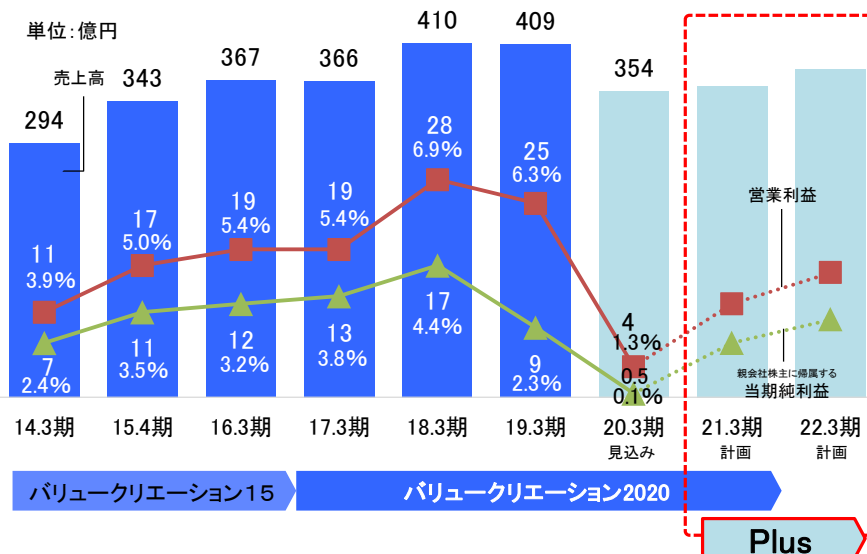
■当社グループが現在置かれている経営環境は、米中貿易摩擦等の影響を受けて、先行きの不透明感が強く、業績も思わしくない状況が継続中

■こうしたなか、「バリュークリエーション2020」の最終年の経営数値や各種施策も含めて見直しを行っており、2021年3月期から2022年3月期の2年間を、「バリュークリエーション2020Plus(プラス)」と名付け、次期中期経営計画までを繋ぐ、立て直し期間としての計画を社内で議論中

■修正もありうる状況だが、その骨子を記載

バリュークリエーション(VC)2020Plusの位置づけ

「バリュークリエーション(VC)2020Plus」は、2021年3月期～2022年3月期



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

15

■「バリュークリエーション2020Plus」の位置づけ

■当社グループは、上場後すぐに、2014年3月期から2016年3月期までの3年間を期間とした、「バリュークリエーション15」を設定し、公表

■その後、2017年3月期から2021年3月期までの5年間を「バリュークリエーション2020」として、公表

■2年前まで経営数値は計画を1年前倒しで進捗する等、順調に推移していたが、ここに来て外部環境が大きく変化しており、この厳しい外部環境は、当面続くものと予測

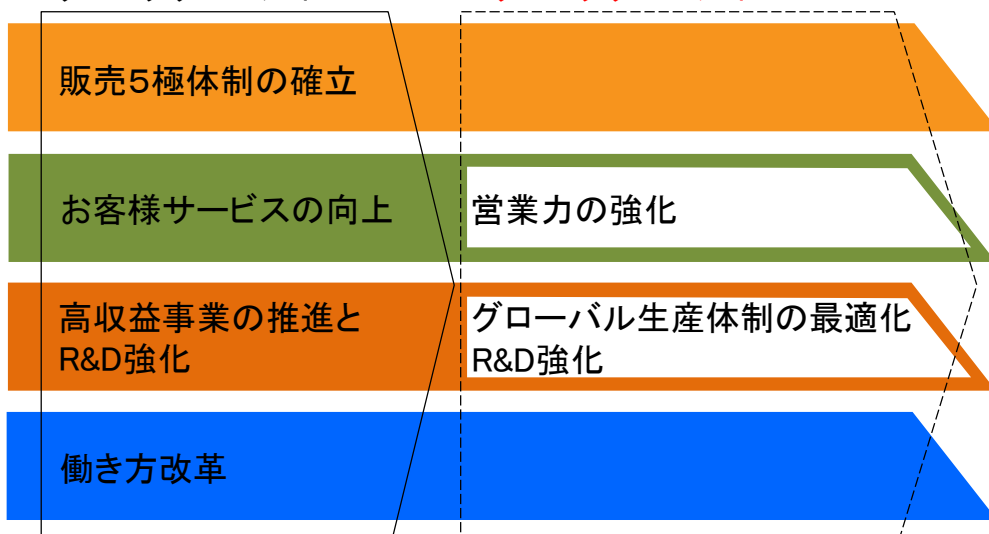
■そこで、「バリュークリエーション2020」で掲げた重点経営課題は引き継ぐものの今現在、当社グループが注力すべき点を再整理し、「バリュークリエーション2020」の最終年も含めた2年間で「バリュークリエーション2020Plus」として、業績を立て直す計画を立案中

■なお、数値面も含めた正式内容の公表は、2020年3月頃を予定

連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題

バリュークリエーション2020

バリュークリエーション2020Plus

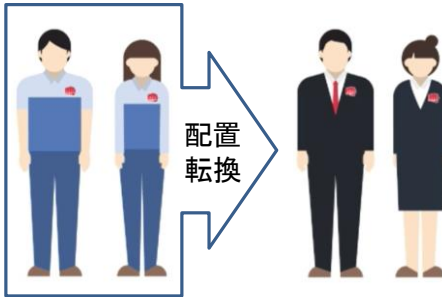


■ 当社グループが注力すべき課題を整理

■ 「バリュークリエーション2020Plus」では、「バリュークリエーション2020」の4つの重点経営課題を引き継ぐ

■ その中で、今後2年間は、「営業力の強化」および「グローバル生産体制の最適化とR&D強化」を、より注力すべき点として設定する予定

営業力の強化



- 特注品受注の強化
⇒図面理解度が高く、加工方法を提案できる製造部門スタッフを営業部門スタッフへ配置転換
- 人員教育の充実
⇒金型勉強会、製造研修等を営業部門スタッフにも実施

営業部門スタッフがお客様ニーズを正確に聞き取る能力育成



営業力の強化

特注品受注の強化＋人員教育の充実



 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

17

■「営業力の強化」

■1つ目は特注品受注の強化

お客様からご依頼頂く製品の図面を確認した際に、「この部分は、この加工方法で対応可能」等の判断や提案を出来るよう、図面に対する理解度の高い製造部門スタッフを営業部門へ配置転換していく予定

■2つ目は人員教育の充実

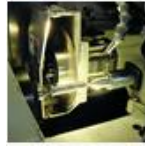
社内研修機関であるパンチアカデミーを通じて、営業部門スタッフにも当社での多様な加工方法等の知識習得を促す

■目的は「営業力の強化」による特注品受注の強化であり、これにより売上高の底上げと利益率の改善を進める

グローバル生産体制の最適化 <日本>



■生産設備台数
2016年3月期 738台
⇒2019年3月期 780台



■カタログ品と特注品の前年同期比
カタログ品 100%
特注品 83%
※2020年3月期2Q累計(日本)



国内生産の見直し

特注品シフト(医療・飲料等)加速



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

18

■「グローバル生産体制の最適化(日本)」

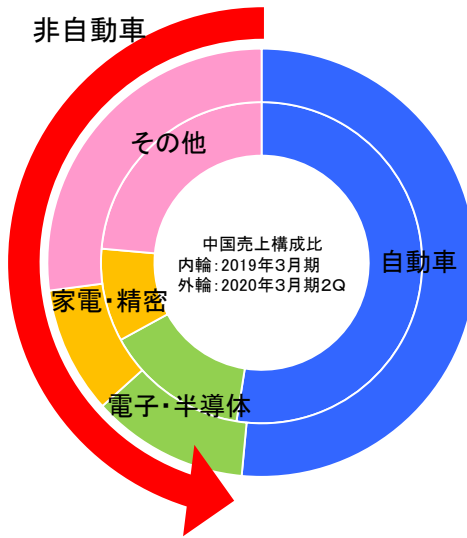
■前中期経営計画「バリュークリエーション15」の最終年である、2016年3月期末から、継続して設備投資を行い、設備台数の増加、とりわけR&D向けの最新加工の増加を図ってきた

■継続的な採用も実施し、習熟度も向上してきたとは言え、まだまだ改善の余地がある状況

■日本では、2020年3月期の第2四半期累計で、カタログ品は前年同期売上を超えたものの、特注品は前年同期割れとなり、これが利益減少に大きな影響を与えた

■設備投資、人員採用、教育にも注力をしており、これを継続することで特注品シフト、特に医療関連や食品・飲料関連などの取組みを加速させる計画

グローバル生産体制の最適化 <中国>



- 開発本部強化
⇒新規製品・新規工法の開発
- 戦略製品の販売拡大
⇒製罐製品の拡販
- 非自動車業界向け売上比率拡大

**生産リソースの
配分最適化**

非自動車拡販は中長期の取組み

■「グローバル生産体制の最適化(中国)」

■2018年に増床が完了した大連工場は、戦略製品のライン新設、研究開発スペースの拡張、そして将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保を果たした

■世界最大の金型市場である中国におけるトップポジションの維持と更なる成長に向けて、特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応する狙いがあったが、その後の米中貿易摩擦等の経営環境の変化もあり、受注減少からくる業績面での苦戦が継続中

■日本同様、食品・飲料関連の設備を增強し、研究開発面ではEV関連等にも取組み、以前より進めている高付加価値戦略製品の受注強化も併せ、非自動車業界向け売上の拡大に向けて取組み中だが、こうした生産リソースの配分最適化は1～2年間で出来るものでもなく、中長期的な取組みとして対応中

■中国では、研究開発が活発な状況にあり、新規製品や新規工法の開発も進捗中であり、今後更に日中で連携を強め、日本でのグローバル生産体制の最適化、それに伴う特注品受注強化に向けた取組みとも連動させ、高収益事業を推し進める

グローバル生産体制の最適化 <ベトナム工場>

2018年 ベトナム工場内



2019年10月時点



- 人員定着率は向上・加工習熟度も一定レベルまで向上
- 生産設備は予定通りに導入済み
- 2019年3月期末に固定資産の減損損失848百万円の特別損失計上
- 当初から今期の赤字計上は想定済みだが日本需要減から生産量が不安定⇒いまだ黒字化には至らず



早期の黒字化

カタログ品の生産品目拡大+安定生産

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

20

■「グローバル生産体制の最適化(ベトナム)」

■ 人員定着率も向上し、習熟度も一定レベルまで上がり、予定通り今年の7月にはカタログ品の一部を日本から生産移管する第2フェーズが完了した。しかしながら、日中での市況悪化による受注量(生産量)の減少等から、前期には固定資産8億48百万円の減損処理を行ったものの、いまだ黒字化までには至っていない状況

■ カタログ品の生産移管について、移管品目を更に増やすこと、また生産品目を増やしたことによる安定生産及び生産効率の向上を継続し、早期の黒字化を目指す

■ 以上が、「バリュークリエーション2020Plus」として、2021年3月期から2022年3月期の2年間、次期中期経営計画までを繋ぐ立て直し期間の大まかな計画内容であり、数値面も含めて社内での議論を活発化させている

可能な限り早期に業績回復を図り、ご心配をおかけしているステークホルダーの皆様のご期待に沿いたい

◇各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

◆決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsume.html>

◆IRニュース一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2019/>

参考資料



会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	4,282名(グループ連結、2019年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

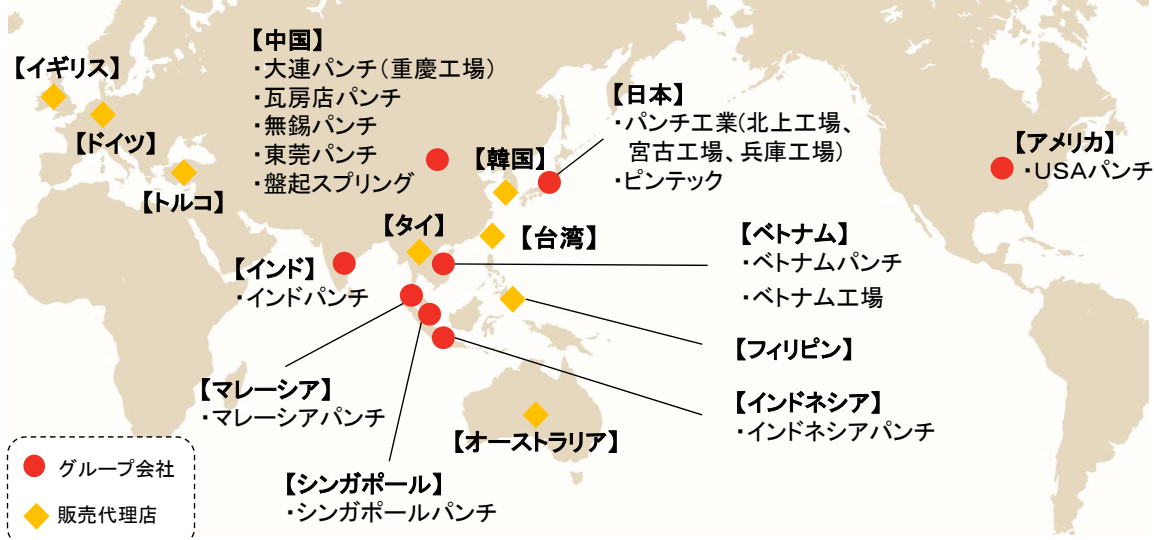
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

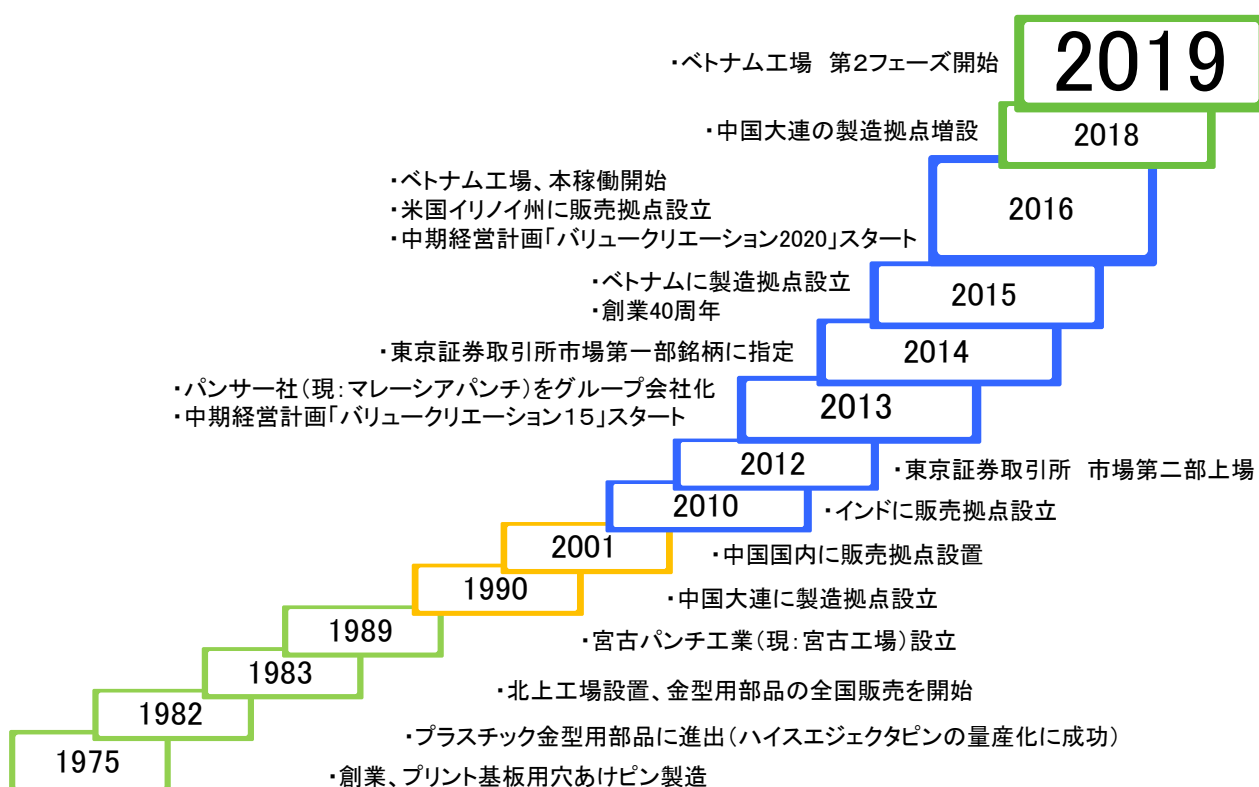
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
11	40
カ所	カ所

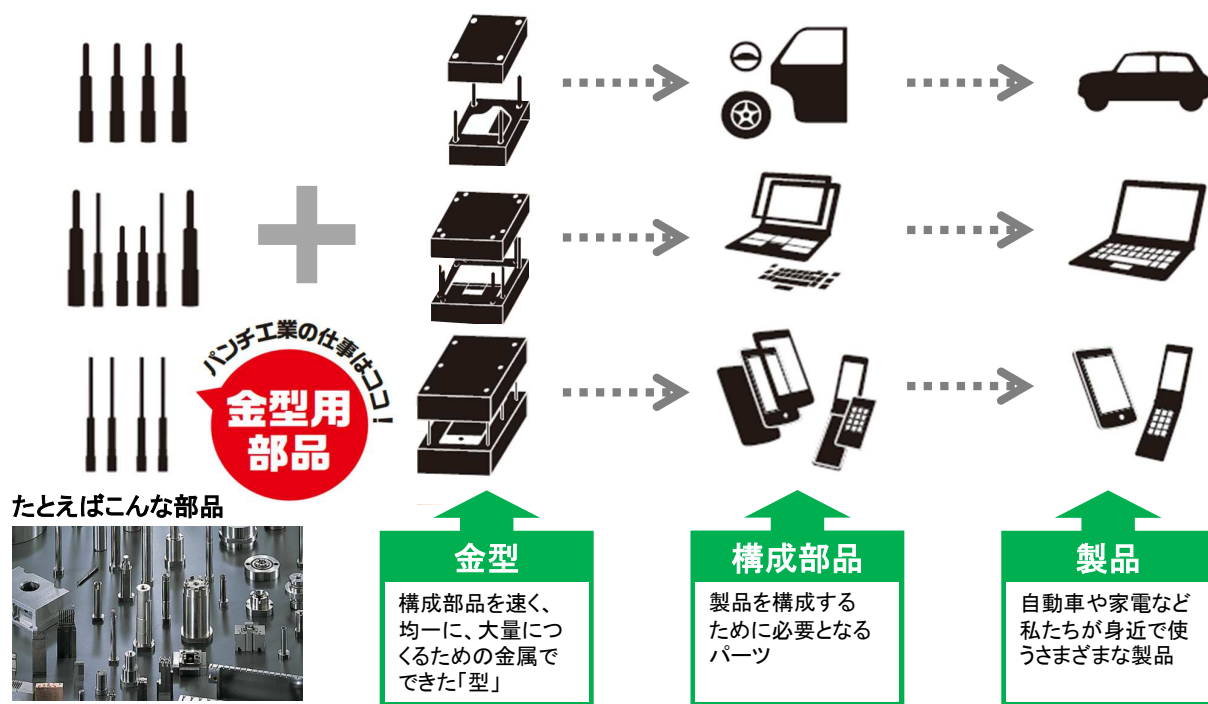


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



プラスチック金型と金型用部品

プラスチック金型

射出成型機

エJECTAピン

スブルーブシュ・ロケットリング

リターンピン

ノックピン

ストップピン

エJECTAピン

エJECTAロッド

エJECTAガイドピン

エJECTAガイドブシュ

ガイドピン

ガイドブシュ

テーパピンセット

ロケットリング

螺旋水管

スブルーブシュ

●プラスチック金型用部品について

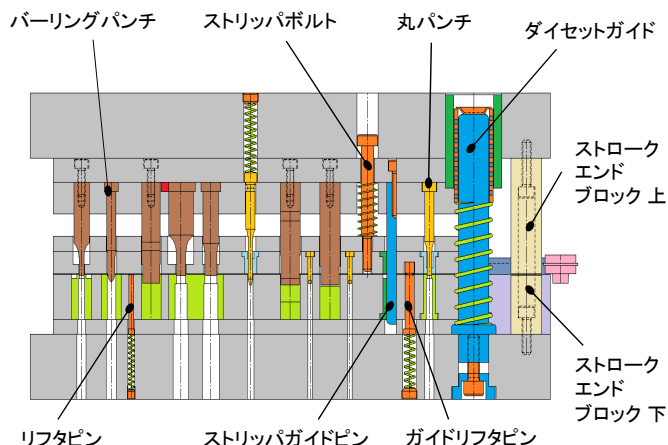
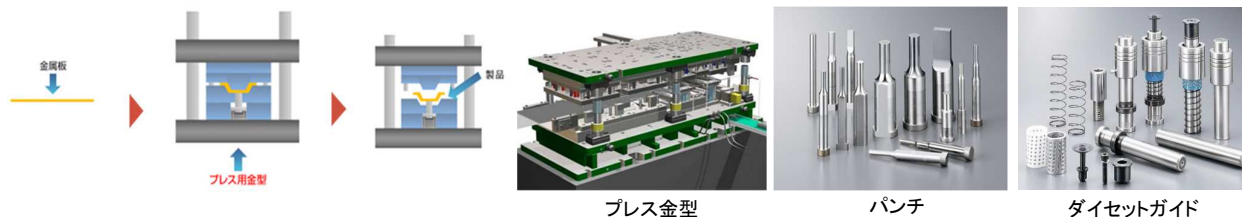
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られています。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエJECTAピン、スブルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エJECTAピン... 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スブルーブシュ... 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

プレス金型と金型用部品



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用する金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品

ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

タイムリーで的確なソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応

一気通貫の生産体制
2,000台以上の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

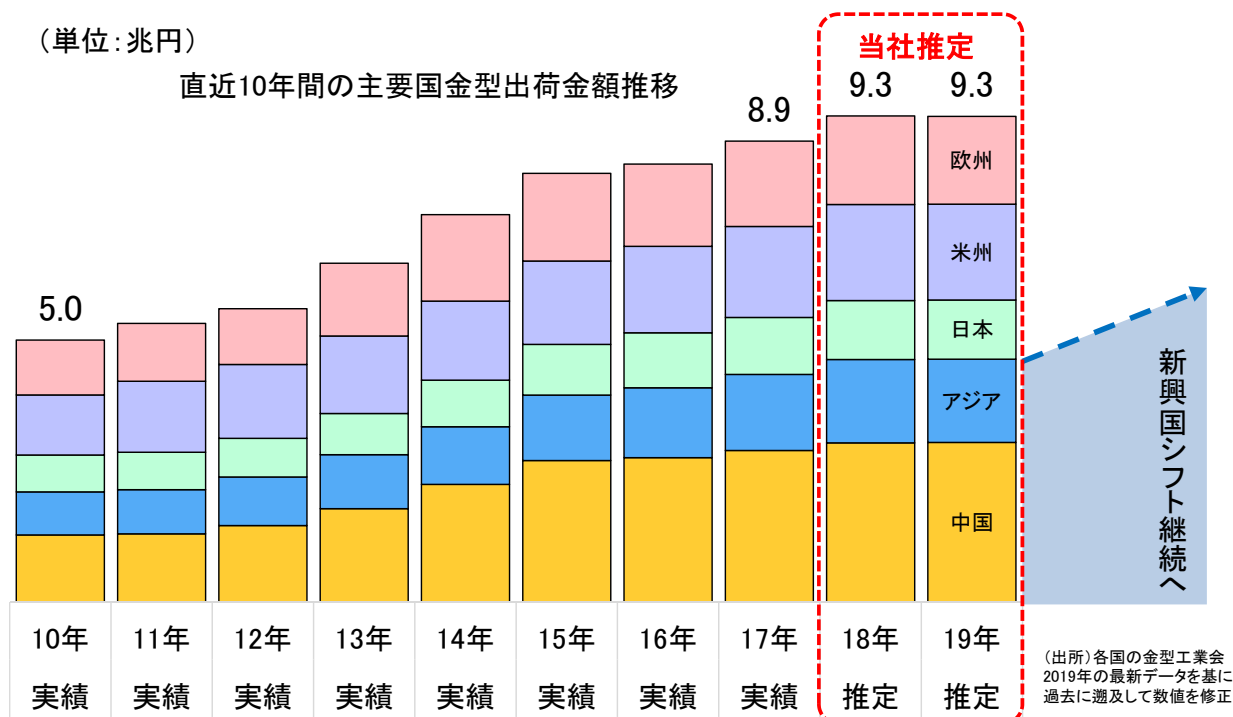
高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に右肩上がりの金型市場。

(単位:兆円)

直近10年間の主要国金型出荷金額推移



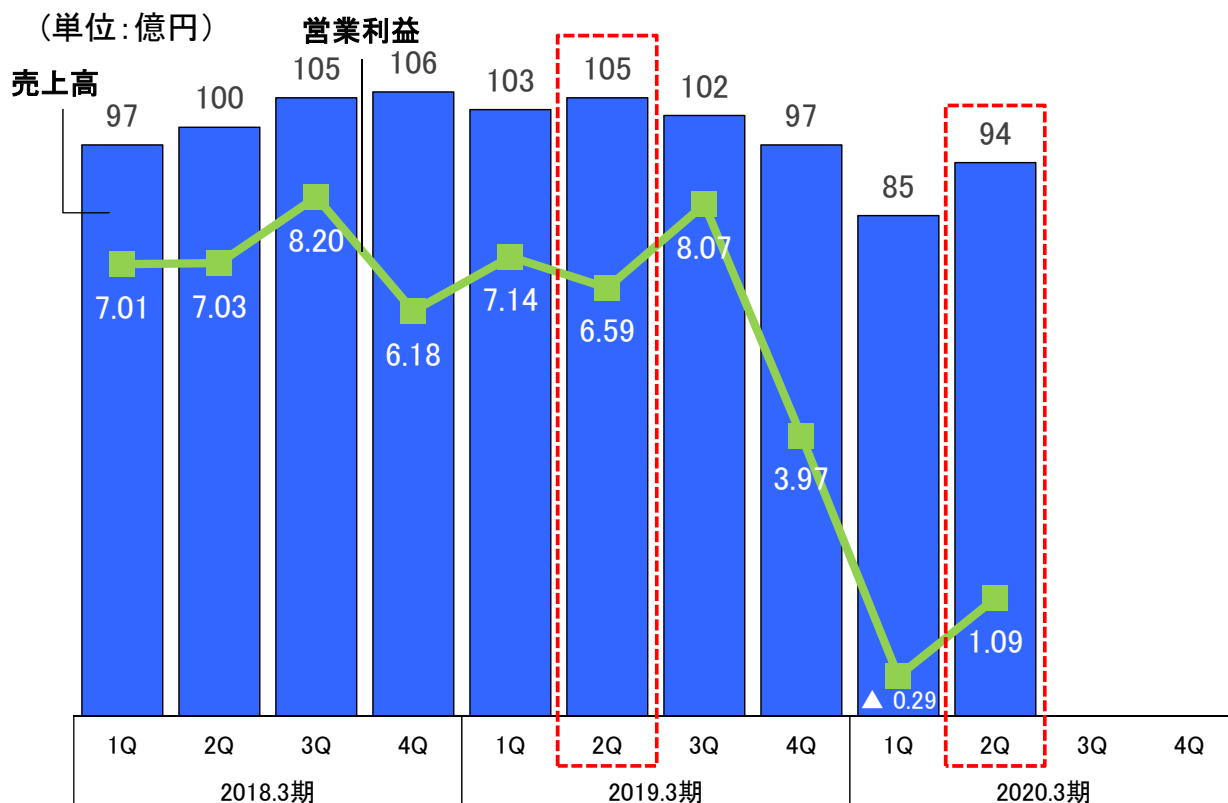
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

29

売上高と営業利益の推移

(単位:億円)



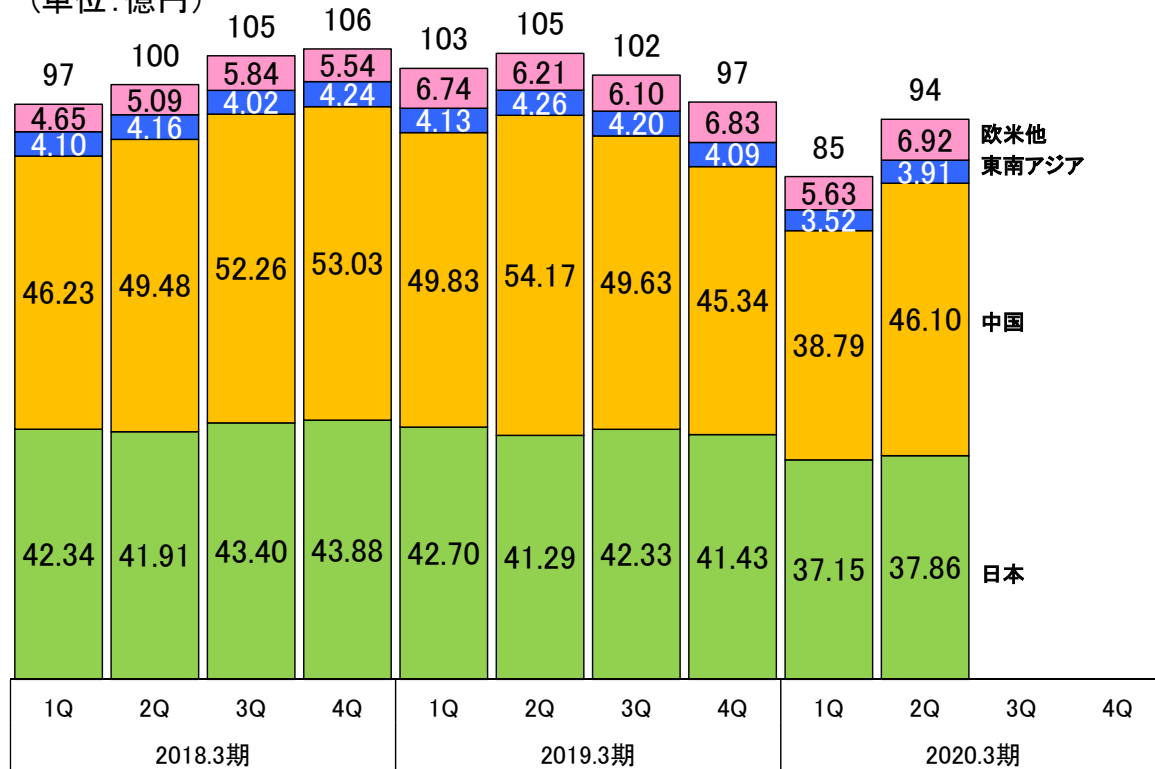
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

30

地域別売上高

(単位: 億円)



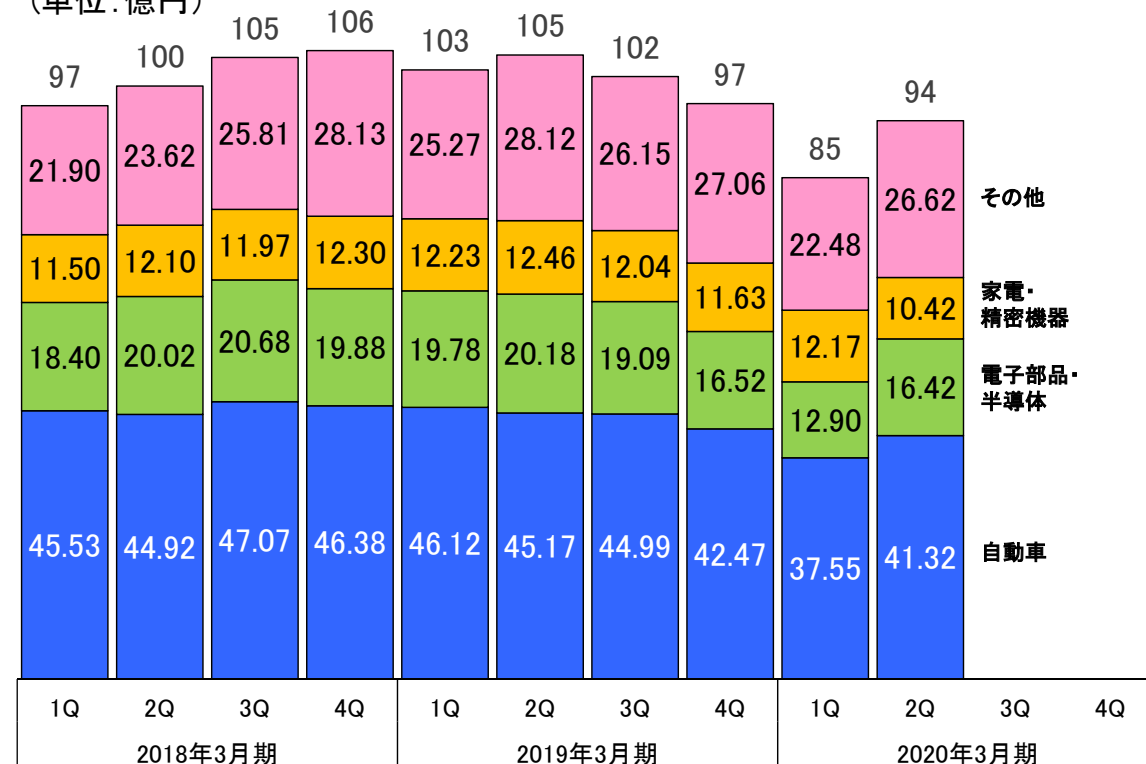
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

31

業種別売上高

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

32

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

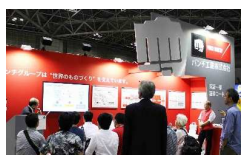
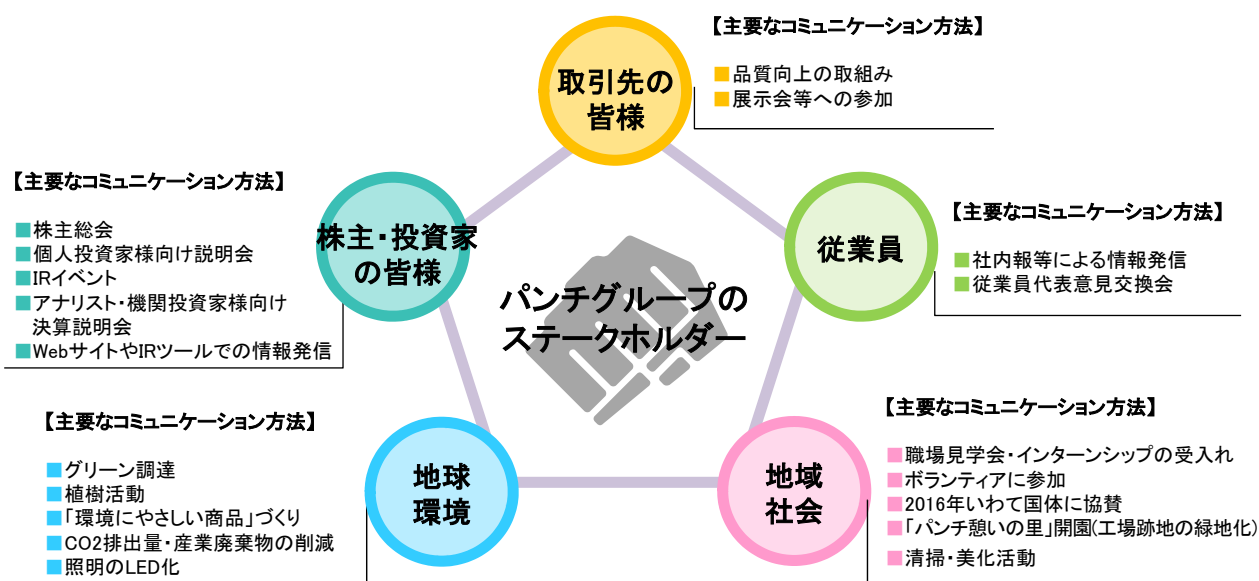
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)



職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。